みなみかぜ　～特別支援教育便り～　ＮＯ．３

長崎市立南長崎小学校
令和３年１１月９日

『発達障害』とは（３）

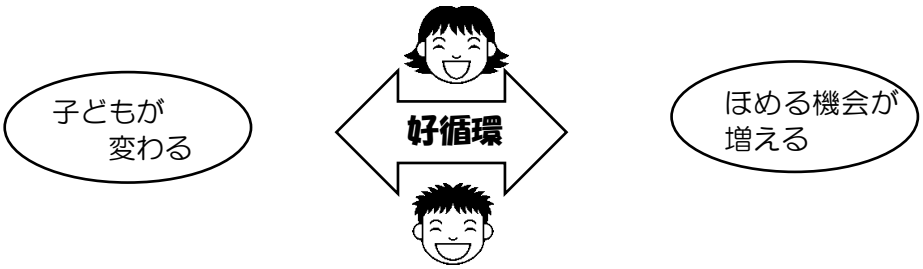
これまでも触れてきましたが，「ＡＤＨＤ」「ＬＤ」「自閉症スペクトラム」「精神発達遅滞」などは，全て「発達障害」の仲間です。
しかしながら，「名前は聞いたことはあるけど，詳しくは分からない。」という方もいらっしゃるのではないでしょうか。
そこで，具体的にそれぞれの特性や困り感などについて紹介していきたいと思います。

○　発達障害について知るということ

～叱られることの多い子どもたち～

☆　何度言っても，友だちとのトラブルが絶えない。
☆　散らかしっ放しでいくら注意しても直らない.
☆　毎日練習しているのに，漢字を覚えられない。

もし，そのお子さんが何らかの困り感をもち，その特性が原因であれば，ただ繰り返し注意したり努力を続けさせたりするだけでは，改善していくことは難しいと言えるでしょう。
しかし，発達障害について正しく知ることができれば，それぞれの子どもたちに合った適切な対応をすることができます。また，専門機関に相談する（連携を取る）ことで，より良いアドバイスをいただけます。



発達障害の特性と，よく似た言動をする子どもたちはたくさんいます。私自身も，ある部分には強いこだわりがある，後片付けが苦手，集団の中よりも１人が落ち着く，などなど・・・思い当たる点はたくさんあります。それでも社会に適応して何とかやっていけるのは，これらを「自分の思考や行動の癖」としてとらえ，周囲に迷惑をかけない程度に過ごしているからだと思います。これは，誰にでも当てはまることではないでしょうか。

【裏に続く】

「ＡＤＨＤ」（注意欠如／多動症）について

「じっとしているのが苦手」「順番が待てない」「集中しにくい」また，「いつもボ～ッとしている」「忘れ物が多い」「自分の世界に入ってしまう」

これは，「ADHD（注意欠如／多動症）」と呼ばれる発達障害の特徴の一部です。

◎ＡＤＨＤの定義

年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力，衝動性，多動性を特徴とする行動の障害で，社会的な活動や学業の機能に支障をきたすものである。

７歳以前に現れ，その状態が継続し，中枢神経系に何らかの原因による機能不全があると推定される。

ドラえもんに例えると，注意欠如は「のび太くんタイプ」，多動・衝動性は「ジャイアンタイプ」と言えます。

◇ＡＤＨＤの特性からくる困り感

○不注意

- 整理整頓が苦手で，机の中や周りに物が散らかっている。
- ボーとしている。または，面と向かっていても，話を聞いていないように見える。
- 学習中だけでなく，遊びの中でも他のことに気を取られて，最後までやり遂げることが苦手である。　など

○多動性

- 教室の中を歩き回ったり，教室から出て行ったりすることがある。
- じっとしていられない。
- 着席していても落ち着かず，手足をそわそわ動かしている。
- 高い所へ登りたがる。　など

○衝動性

- 質問が終わらないうちに，答え始めてしまうことがある。
- 行動が雑になりがち。
- 乱暴（学校では筆箱など，家庭ではおもちゃなどの扱いが粗雑）
- 順番を待つことが苦手。　など

主に，「行動のコントロール」に困り感があります。
また，タイプとして，不注意優勢型，多動性・衝動性優勢型，混合型の３タイプがあると言われています。